

## オホーツクデータセンター 稼働実現構想

～ 北海道のデジタル戦略に対応して、地域のデジタル化の役割を担いたい ～

令和6年1月16日  
アイティデザイン研究所 代表 逢坂信治

私達は日常、パソコンやスマートフォンを使用しています、この役割を支えているのが「データセンター：DC」なのです。このDCが容量不足や故障で使えなくなると、Twitterでつぶやくことも、LINEで連絡を取り合うことも、Facebookなどに投稿することも出来なくなります。銀行のATMもSuicaなどの交通系ICカードも使えなくなります。Amazonで商品を買うことも出来なくなります。

もちろん、企業活動に大きな影響が出ます。電子メールの通信が出来なくなるなど、銀行、製造業、医療、サービス業などありとあらゆる企業のシステムが停止してしまい、ビジネスが大混乱となるばかりか、想像もつかない損失が発生します。

DCは目立たないのですが、コンピューター社会ではなくてはならない社会インフラです。近年、IOT (Internet of Thingsの略、モノのインターネット) が急速に普及していますそしてこの技術が自動運転を可能にします。一方、最新の生成AIは、機械学習やディープラーニングという大量のデータを基に学習して、自らを成長させるモデルを採用しています。これらの技術は巨大なデータが発生し、その処理と保管に半導体を多量に消費する巨大なDCが必要になります

CDは冷涼な気候、風力発電など富な電力、光海底ケーブルの陸揚げ地などが立地の条件となります。この条件が見事にそろっているのが私達が住んでいる北海道なのです。

さくらコンピューター（大阪）の石狩データセンターが稼働しています、昨年6月、生成AI開発用スパコンの整備に130億円規模の投資を発表しています。

また昨年11月、ソフトバンク（東京）は苫小牧に大規模データセンターの建設を発表。投資規模は650億円と言われています。また同社は道央圏以外でのDC立地もあり得ると言っています。

国内のDCは8割が東京と大阪に集中しています。産経省は昨年6月、リスク分散などの観点から北海道と九州でのDC新設に半額補助の方針を打ち出しています。

現在、千歳ではラピダス（東京）が1兆円規模で半導体の量産を目指して工場を建設中です。

IOTや生成AIなどの技術は急速な勢いでデジタル革命に向って猛進しています。北海道は半導体・デジタル産業の日本の中心になる可能性が十分にあります。

私達の地域でもDCの稼働は夢ではなく現実的課題です。この構想に着手すべく、そのスタートアップの取り組みを直ぐに始めなければ成らないと考えています。そのための基礎資料を本文に添付します、さあその議論を始めよう。

### 目標とその具体的計画

- 1) 半導体やデジタル産業を大まかに知る
  - ①基礎資料の充実や関連情報の収集
  - ②国や北海道の施策を研究する
  - ③関係機関との情報交換や懇談
- 2) オホーツクデータセンターの可能性を探るケーススタディ
  - ①日本赤十字社のバックアップセンターについて
  - ②オホーツク圏汎用（医療、IoT（自動運転・スマート農業））データセンターについて
- 3) 実現構想を運動案としてまとめる
- 4) 実現構想を運動に進化
  - ①関係機関との協議
  - ②フォーラムなどで地域に広報する

以上